岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・日本株式ファンド

追加型投信／国内／株式

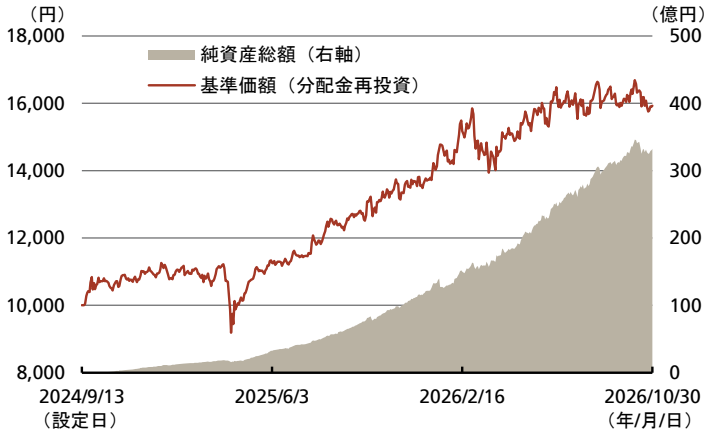
ファンドデータ

基準価額	15,922円
純資産総額	332.3億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績（1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.72%	1.87%	4.99%	19.67%	—	59.22%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	ブラックロック日本株式オープン（FOFs用）（適格機関投資家専用）	20.6%	-2.3%
2	UBS（Lux） エクイティ・ファンド - ジャパン（JPY）- I-A3	19.8%	1.5%
3	One国内株オープンFⅡ（FOFs用）（適格機関投資家限定）	19.6%	-0.9%
4	ダイワ・スマート日本株ファンダメンタル・ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用）	14.8%	-1.0%
5	日本株リサーチアクティブファンド（適格機関投資家専用）	14.7%	-0.9%
6	シュローダー日本ファンド（適格機関投資家専用）	9.9%	-0.6%
7	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の日本株式市場は、日経平均株価、TOPIX（配当込み）ともに下落となりました。10月中旬からAI投資の持続性に対する懸念が高まり、AI関連セクターが大きく調整しました。一方、AIとの関連性が低いディフェンシブセクターや、AIによる構造変化への懸念から売られていたソフトウエアセクターなどが買われいわば「逆AI相場」とも言える展開となりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に下落しました。

組入ファンド*については、「UBS（Lux） エクイティ・ファンド - ジャパン（JPY）- I-A3」が上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。一方、組入比率上位の「ブラックロック日本株式オープン（FOFs用）（適格機関投資家専用）」などは下落し、当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・米国株式ファンド

追加型投信／海外／株式

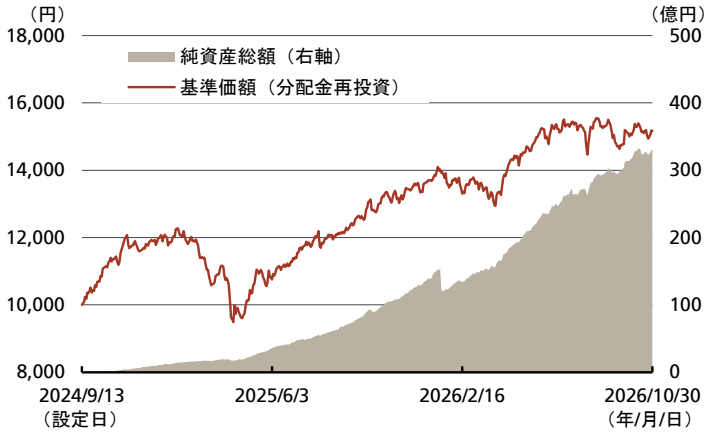
ファンドデータ

基準価額	15,168円
純資産総額	330.7億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.11%	2.71%	5.33%	13.63%	—	51.68%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	UBS（Lux）エクイティSICAV - USAグロース（USD）- I-A3	20.0%	-2.0%
2	JPモルガン・ファンズ - USグロース・ファンド - I USD	19.2%	-2.7%
3	ブランデスUSバリュー・ファンド - SI USD	18.6%	6.4%
4	ロベコ BP USラージ・キャップ・エクイティーズ - I-USD	17.8%	2.5%
5	iシェアーズ ラッセル1000 バリュー UCITS ETF - USD	10.3%	4.8%
6	iシェアーズ ラッセル1000 グロース UCITS ETF - USD	9.6%	-3.4%
7	MFSメリディアン・ファンズ - USバリュー・ファンド - I1 USD	4.5%	5.0%
8	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の米国株式市場は主要株価指数でまちまちの動きとなりました。月前半は、雇用統計が市場予想を下回り、追加利上げへの警戒が和らぐ中、株価は上昇しました。その後、消費者物価指数が市場予想を上回るとインフレ懸念が再び強まり、ハイテク株を中心に上値の重い展開となりました。28日には米連邦準備制度理事会（FRB）が政策金利を据え置いたものの、先行きの利上げ観測は残り、株価は小幅な上昇にとどまりました。月末にかけては、大手ハイテク企業の決算を受け、巨額のAI関連投資に伴うキャッシュフロー悪化や採算性への懸念が強まり、最終営業日には半導体株などへの売りが広がりました。月間ではダウ工業株30種平均が上昇した一方、S&P500種指数とナスダック総合指数は下落しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で上昇しました。

組入ファンド*については、「ブランデスUSバリュー・ファンド - SI USD」および「iシェアーズ ラッセル1000 バリュー UCITS ETF - USD」などが上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。なお、為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・欧州株式ファンド

追加型投信／海外／株式

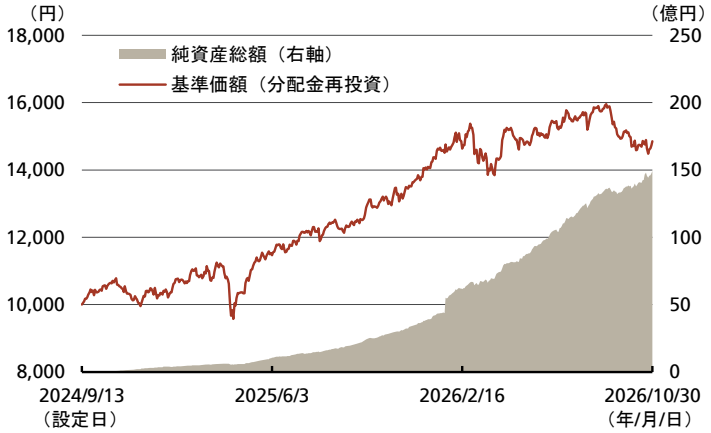
ファンドデータ

基準価額	14,855円
純資産総額	149.1億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額(分配金再投資)と純資産総額の推移



基準価額(分配金再投資)の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.97%	-5.26%	0.60%	12.44%	—	48.55%

※基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後、ファンドの分配金(1万口当たり、税引前)でファンドを購入(再投資)したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	JPモルガン・ファンズ - ヨーロッパ・エクイティ・ファンド - I EURO	84.4%	-0.4%
2	ウェリントン・ストラテジック・ヨーロピアン・エクイティ - EUR S	15.3%	3.6%
3	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の欧州株式市場は小幅ながら全般的に上昇しました。月初は、エネルギー価格の高止まりに伴うインフレ懸念や長期金利の上昇などが重しとなりましたその後は、原油価格や国債利回りの低下を受けて上昇に転じ、月中旬にかけては良好な企業決算などを背景に上げ幅を拡大しました。下旬には、フランスの政治・財政を巡る不透明感や、中東情勢を背景とする原油高から再び下落する場面もありましたが、その後はドイツの景況感改善や企業の好決算などを受けて持ち直しました。欧州中央銀行(ECB)が政策金利を据え置いたことも相場を支え、月末にかけて上昇基調となりました。最終営業日は、AI関連投資の採算性への懸念からハイテク株が売られたものの、欧州の主要株価指数はおおむね月間で上昇しました。為替市場では、ユーロの対円相場はユーロ安・円高となりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に下落しました。

組入ファンド*については、「ウェリントン・ストラテジック・ヨーロピアン・エクイティ - EUR S」が上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。一方、組入比率上位の「JPモルガン・ファンズ - ヨーロッパ・エクイティ・ファンド - I EURO」は下落し、当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。なお、当月はユーロの対円相場がユーロ安・円高となったため、為替変動は当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・日本債券ファンド

追加型投信／国内／債券

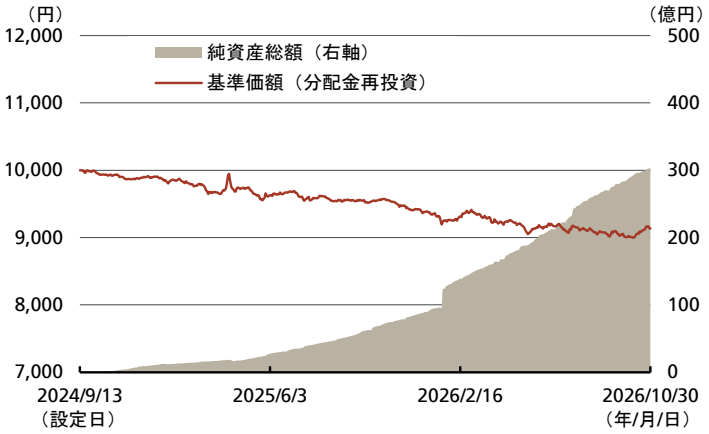
ファンドデータ

基準価額	9,131円
純資産総額	303.6億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績（1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.34%	0.10%	-1.00%	-4.65%	—	-8.69%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	One金利・クレジット型戦略ファンドⅡ（FOFs用）（適格機関投資家限定）	50.1%	1.2%
2	明治安田FOFs用アクティブ日本債券ファンド（適格機関投資家専用）	49.3%	1.5%
3	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の日本債券市場は上昇しました。月の前半は、米国の長期金利上昇や国内のインフレ懸念などから長期金利が上昇しましたが、その後は、海外長期金利の低下を受けて低下に転じました。月半ば以降は、株安を背景としたリスク回避の動きや、政府が国債発行額を適切に管理する方針を示したことなどから、低下基調が続きました。月末にかけては一時上昇しましたが、米国の長期金利が低下する中、日銀が政策金利を据え置いたこともあり、最終営業日には再び低下しました。こうした中、長期・超長期金利の低下幅が短中期金利に比べて大きく、長短金利差は縮小しました。月末の10年物国債利回りは前月末を下回り、債券価格を押し上げる要因となりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で上昇しました。

組入ファンド*については、「明治安田FOFs用アクティブ日本債券ファンド（適格機関投資家専用）」および「One金利・クレジット型戦略ファンドⅡ（FOFs用）（適格機関投資家限定）」がいずれも上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・世界債券ファンド

追加型投信／内外／債券

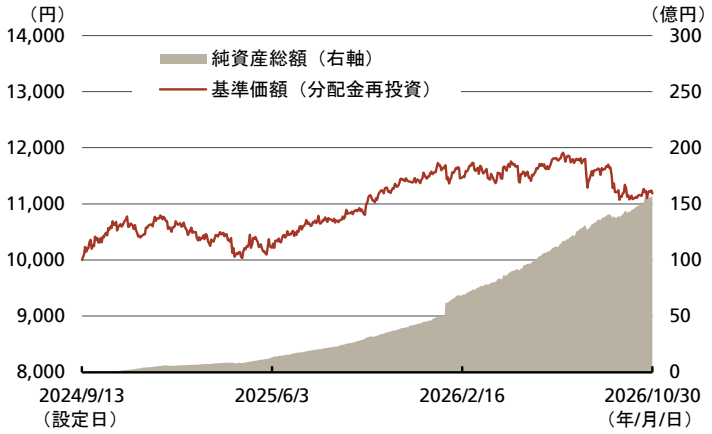
ファンドデータ

基準価額	11,188円
純資産総額	156.3億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.99%	-3.25%	-4.21%	-0.88%	—	11.88%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	PIMCOファンズ・グローバル・インベスターズ・シリーズPLC – グローバル・ボンド・ファンド- INSTITUTIONAL USD	99.9%	0.9%
2	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の世界債券市場では、主要国の国債利回りが概ね低下しました。米国では、雇用者数の伸びが市場予想を下回り、早期の追加利上げ観測が後退したほか、月後半にはハイテク株安や中東情勢の緊迫化を受け、安全資産とされる米国債への買いが強まりました。月末の米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利が据え置かれ、米長期金利は月中に振れを伴いながらも前月末を下回りました。欧州では、欧州中央銀行（ECB）が政策金利を据え置く中、ドイツ国債利回りが低下して債券価格が上昇する一方、フランスの財政・政治情勢を巡る懸念から、独仏国債の利回り差が広がる場面もありました。こうした国債利回りの低下を背景に、投資適格社債の価格も上昇したものの、信用スプレッドは前月末から拡大しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいでした。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に上昇しました。

組入ファンド*である「PIMCOファンズ・グローバル・インベスターズ・シリーズPLC – グローバル・ボンド・ファンド- INSTITUTIONAL USD」は上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。なお、為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・ハイ・イールド債券ファンド

追加型投信／内外／債券

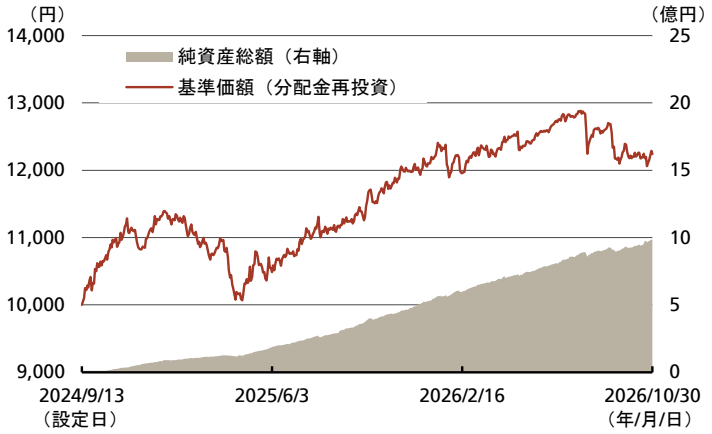
ファンドデータ

基準価額	12,238円
純資産総額	9.8億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.50%	-3.00%	-2.66%	3.54%	—	22.38%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	ノムラ・ファンズ・アイルランド - USハイ・イールド・ボンド・ファンド - I USD	84.7%	0.3%
2	NYLI GF USハイ・イールド・コーポレート・ボンド - PI USD	14.6%	1.1%
3	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月のハイイールド債券市場は小幅に下落しました。月の前半は、信用スプレッドが拡大と縮小を繰り返すなか、相場は方向感に乏しい展開となりました。月の後半は、信用スプレッドの拡大を背景に下落し、月末にかけて一時持ち直したものの、前月末の水準を下回って終えました。地域別では、米国は、信用スプレッドの拡大が重しとなったものの、米国債利回りの低下が支援材料となり、ハイイールド債券市場は小幅に上昇しました。一方、欧州は、ドイツ国債利回りが低下したものの、フランスの財政・政治情勢を巡る懸念などを背景とした信用スプレッドの拡大が価格の重しとなり、ハイイールド債券市場は下落しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に上昇しました。

組入ファンド*については、「ノムラ・ファンズ・アイルランド - USハイ・イールド・ボンド・ファンド - I USD」および「NYLI GF USハイ・イールド・コーポレート・ボンド - PI USD」がいずれも上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。なお、為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・オルタナティブファンド

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

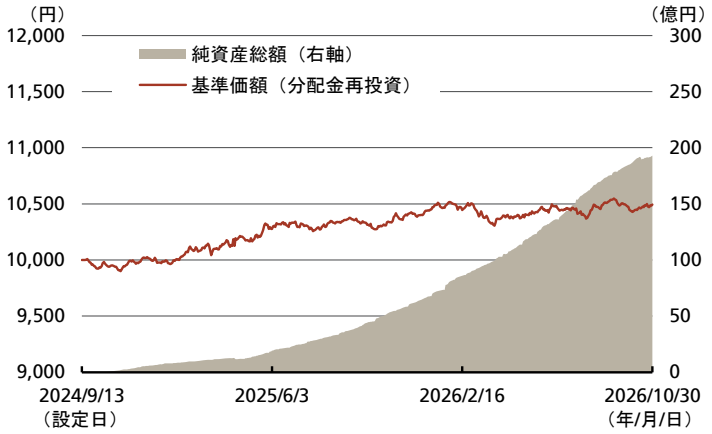
ファンドデータ

基準価額	10,493円
純資産総額	193.0億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.42%	1.20%	0.87%	1.79%	—	4.93%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	アビバ・インベスターズ - マルチ-ストラテジー・ターゲット・リターン・ファンド - MH USD	25.3%	-1.2%
2	ラザード・ラスモア・オルタナティブ・ファンド - Z USD	20.1%	-0.4%
3	ジュピター・メリアン・グローバル・エクイティ・アブソリュート・リターン・ファンド - I USD	19.6%	0.0%
4	UBS（Irl）インベスター・セレクション - グローバル・エクイティ・ロング・ショート・ファンド - USD I A3 PF	15.4%	5.4%
5	ヘプタゴン - ケトルヒル US ロング・ショート株式ファンド - Y1 USD	9.8%	2.3%
6	ニューバーガー・バーマン US ロング・ショート・エクイティ・ファンド - I3 USD	9.7%	0.4%
7	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の世界の金融市場では、株式市場が小幅に下落する一方、債券市場では主要国の国債利回りが概ね低下しました。株式市場では、米雇用統計の下振れを受けて早期の追加利上げへの警戒が和らぎ、月の前半は米国株が上昇したものの、月末にかけてはAI関連投資の採算性への懸念から、ハイテク株を中心に売りが広がりました。欧州株式は、企業の好決算などに支えられ、小幅に上昇しました。債券市場では、月後半のハイテク株安や中東情勢の緊迫化を受け、安全資産とされる米国債への買いが強まりました。米独の国債利回りが低下する中、投資適格社債の価格も上昇したものの、信用スプレッドは前月末から拡大しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に上昇しました。

組入ファンド*については、「UBS（Irl）インベスター・セレクション - グローバル・エクイティ・ロング・ショート・ファンド - USD I A3 PF」および「ヘプタゴン - ケトルヒル US ロング・ショート株式ファンド - Y1 USD」が上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。一方、組入比率上位の「アビバ・インベスターズ - マルチ-ストラテジー・ターゲット・リターン・ファンド - MH USD」などは下落し、当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。そのほか多くのファンドが小幅ながら上昇し、全般的にプラスに寄与しました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・世界リートファンド

追加型投信／内外／資産複合

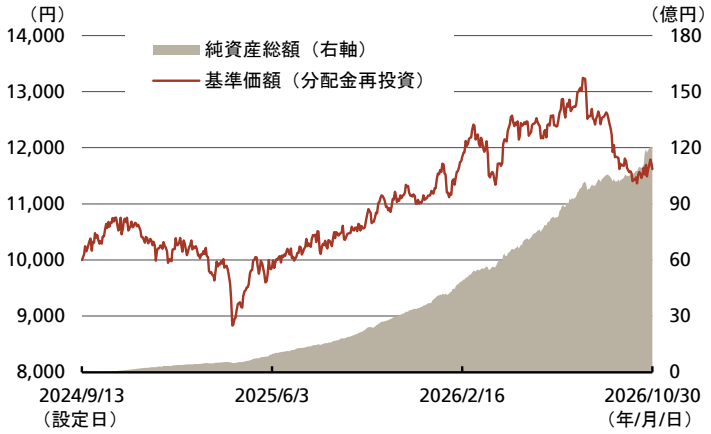
ファンドデータ

基準価額	11,621円
純資産総額	119.7億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績（1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.49%	-10.48%	-6.83%	6.14%	—	16.21%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	コヘン＆スティアーズ SICAV - グローバル・リアル・エステート・セキュリティーズ・ファンド - F USD	99.9%	0.3%
2	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の世界リート市場は、前月末比で上昇しました。月の初めは、米国の長期金利が高水準で推移する中、米国や欧州のリート市場を中心に上値の重い展開となりました。その後は、米国やドイツの長期金利が低下したことを受けて持ち直しましたが、月後半には長期金利が一時上昇した局面で上げ幅を縮小しました。月末にかけては、米独の長期金利が再び低下したことが支援材料となり、米欧のリート市場がともに反発したことから、世界リート市場は月内の高値で取引を終えました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に上昇しました。

組入ファンド*である「コヘン＆スティアーズ SICAV - グローバル・リアル・エステート・セキュリティーズ・ファンド - F USD」は上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。なお、為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・エマージング株式ファンド

追加型投信／海外／株式

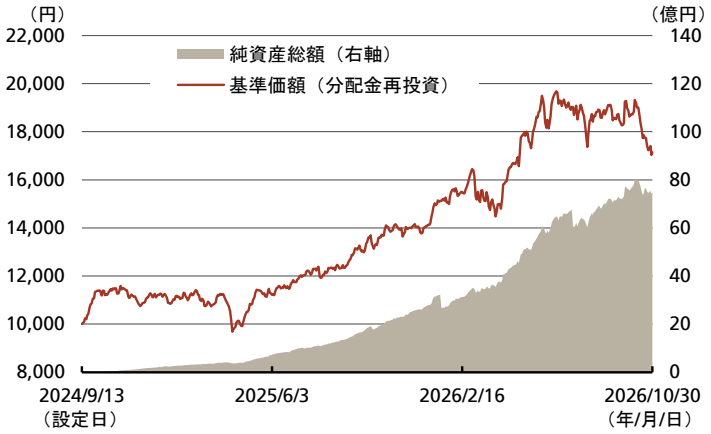
ファンドデータ

基準価額	17,142円
純資産総額	74.9億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	-7.96%	-4.00%	1.22%	21.51%	—	71.42%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	サンズ・キャピタル・エマージング・マーケッツ・グロース・ファンド - A USD	39.9%	-10.9%
2	アカディアン・エマージング・マーケッツ・エクイティ UCITS Ⅱ - C	31.0%	-6.7%
3	ARGAエマージング・マーケット・エクイティ・ファンド - CK USD	28.7%	-6.0%
4	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月のエマージング株式市場は前月末比で下落しました。AI関連投資の収益性への懸念や米国の追加利上げ観測が重しとなりました。韓国では半導体関連株が売られ、良好な企業決算を受けて反発する場面もありましたが、月末にかけて再び売りが強まり、月間では大幅に下落しました。台湾でも半導体関連株を中心に株価が下落しました。中国・香港では、追加景気対策への期待後退やハイテク株安が相場を押し下げました。ブラジルでは、大統領選挙の第1回投票後に株価が上昇しましたが、ルラ大統領の再選を受けて財政の先行きへの懸念が高まり、月末に急落しました。一方、インドでは原油高が重しとなったものの、企業業績や株式譲渡益課税の見直し期待が相場を支え、IT関連株を中心に上昇しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で下落しました。

組入ファンド*については、「サンズ・キャピタル・エマージング・マーケッツ・グロース・ファンド - A USD」、「アカディアン・エマージング・マーケッツ・エクイティ UCITS Ⅱ - C」および「ARGAエマージング・マーケット・エクイティ・ファンド - CK USD」が下落し、当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。なお為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBS・コモディティファンド

追加型投信／内外／資産複合

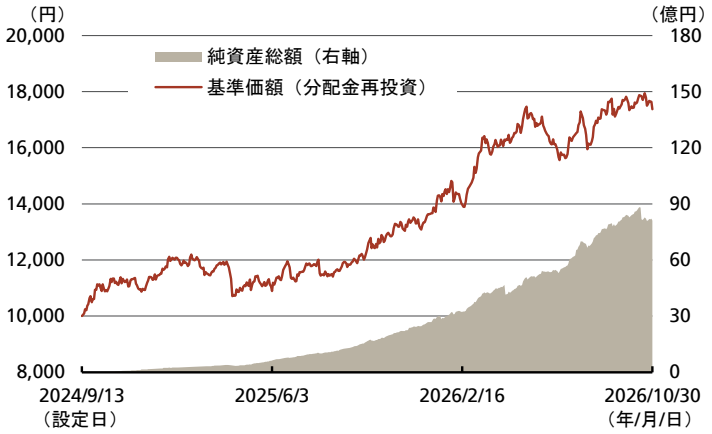
ファンドデータ

基準価額	17,371円
純資産総額	81.0億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額（分配金再投資）と純資産総額の推移



基準価額（分配金再投資）の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.17%	5.55%	3.07%	35.08%	—	73.71%

※基準価額（分配金再投資）は、運用管理費用（信託報酬）控除後、ファンドの分配金（1万口当たり、税引前）でファンドを購入（再投資）したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	UBS BBGコモディティ・CMCI SF UCITS ETF- USD	70.4%	-0.5%
2	ニューバーガー・バーマン・コモディティーズ・ファンド - I3 USD	30.1%	1.6%
3	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月のコモディティ市場は、前月末比でほぼ横ばいとなりました。原油などのエネルギー価格が上昇した一方、金などの貴金属や穀物の価格は下落し、コモディティ総合指数は月半ばに高値を付けた後、月末にかけて水準を切り下げました。原油価格は、中東情勢の緊迫化に伴う供給懸念から月前半に上昇しました。その後は一時反落したものの、月末にかけて供給不安が再燃したことから再び上昇し、WTI原油とブレント原油は月間で大幅に上昇しました。金価格は、原油高などを背景としたインフレ懸念や、米国の追加利上げ観測の高まりが重しとなり、下落しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に上昇しました。

組入ファンド*については、「ニューバーガー・バーマン・コモディティーズ・ファンド - I3 USD」が上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。一方、組入比率上位の「UBS BBGコモディティ・CMCI SF UCITS ETF- USD」は下落し、当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。なお、為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ

FW・UBSプレミアム・エクイティファンド

追加型投信／内外／株式

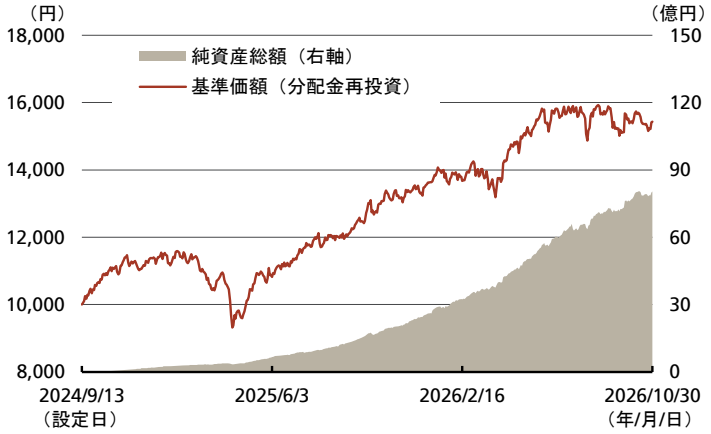
ファンドデータ

基準価額	15,431円
純資産総額	80.3億円
設定日	2024年9月13日
信託期間	無期限
決算日	原則として毎年6月10日 (休業日の場合は翌営業日)

分配金実績 （1万口当たり、税引前）

決算日	分配金額
2025年6月10日	0円
2026年6月10日	0円
—	—
—	—
—	—
設定来累計	0円

基準価額(分配金再投資)と純資産総額の推移



基準価額(分配金再投資)の騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.29%	2.41%	4.04%	15.27%	—	54.31%

※基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後、ファンドの分配金(1万口当たり、税引前)でファンドを購入(再投資)したと仮定した場合の価額です。
※基準価額の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、運用状況等によっては分配金が支払われない場合があります。

投資信託組入配分（対純資産総額比）

	組入ファンド名称	組入比率	各ファンドの基準価額騰落率*（1ヶ月）
1	UBSコモン・コントラクチュアル・ファンド - グローバル・クライメート・トランジション UCITS - I-N A USD	59.4%	0.4%
2	UBS（Lux）キー・セレクションSICAV - デジタル・トランスフォーメーション・テーマズ（USD） - I-A3	15.7%	-1.7%
3	UBS（Lux）インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド - I-A1	14.9%	5.9%
4	UBS（Lux）インスティテューショナル SICAV - エマージング・マーケッツ・エクイティ・パッシブ（USD） - I-A1	9.6%	-5.9%
5	UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）	0.0%	0.1%
6			
7			
8			
9			
10			

*組入ファンドの騰落率は、組入ファンドの基準通貨ベースで算出しております。組入開始後1ヶ月経過していない場合は、「騰落率」を表示しておりません。
※組入比率の合計は投資信託の計理処理上100%を超える場合があります。また、月中に全売却した場合は表示しておりません。

運用コメント

当月の世界株式市場は、前月末比で小幅に下落しました。米国では、月前半に雇用統計が市場予想を下回り、追加利上げへの警戒が和らぐ中、株価は上昇しました。その後、消費者物価指数が市場予想を上回るとインフレ懸念が再び強まり、米連邦準備制度理事会(FRB)が政策金利を据え置いた後も、先行きの利上げ観測が残りました。月末にかけては、AI関連投資の採算性への懸念から、ハイテク株を中心に売りが広がりました。月間では、ダウ工業株30種平均が上昇した一方、S&P500種指数とナスダック総合指数は下落しました。米国以外では、企業の好決算や欧州中央銀行(ECB)の政策金利据え置きが支えとなり欧州株式は小幅に上昇しました。エマージング株式市場では、韓国、ブラジル、中国、台湾が下落した一方、インドは上昇しました。為替市場では、米ドルの対円相場はほぼ横ばいとなりました。
※上記の市場概況は月末ベースのパフォーマンスを基に作成しており、ファンドのパフォーマンスとは算出時点が異なります。

当ファンドの基準価額は前月末比で小幅に上昇しました。

組入ファンド*については、「UBS(Lux)インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド - I-A1」および「UBSコモン・コントラクチュアル・ファンド - グローバル・クライメート・トランジション UCITS - I-N A USD」が上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの寄与となりました。一方、「UBS(Lux)インスティテューショナル SICAV - エマージング・マーケッツ・エクイティ・パッシブ(USD)- I-A1」などは下落し、当ファンドのパフォーマンスにマイナスの寄与となりました。なお、為替変動による当ファンドのパフォーマンスへの影響は限定的となりました。
*主要投資対象である組入ファンドについて記載しています。

※上記は基準日時点におけるデータであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、市場動向等により変動します。また、いかなる個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等の行為を推奨するものではありません。
※運用コメントは、本資料作成時点のものであり、将来の動向や結果を示唆、保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合もあります。

ファンドの特色

ファンドの特色

1「岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ」は、投資者と販売会社が締結する投資一任契約に基づく資産管理口座の資金を運用するためのファンドです。

・「岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ」の申込みを行なう場合には、販売会社との投資一任契約の締結および資産管理口座の運営に関する手続きを行う必要があります。

2「岡三・UBS・ファンドラップ・シリーズ」を構成する各ファンドは、それぞれ投資対象が異なる投資信託証券(注)への投資を通じて実質的な運用を行ないます。

（注）以下、「指定投資信託証券」といいます。

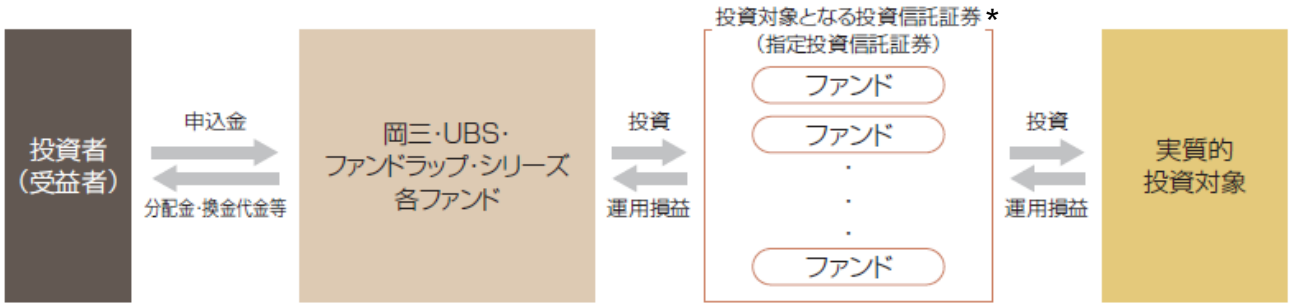
3 指定投資信託証券の選定、組入比率の決定は、マルチ・マネジャー戦略に関する豊富な経験と実績を有するUBSアセット・マネジメント・グループが行ないます。

・UBSアセット・マネジメント・グループは、グローバルな総合金融機関であるUBSグループの資産運用部門です。
・各ファンドにおける指定投資信託証券の選定・組入比率の決定は、UBSアセット・マネジメント・グループの一員であるUBSアセット・マネジメント（UK）リミテッドおよびUBSアセット・マネジメント（アメリカス）エルエルシーが共同で行います。

ファンドの仕組み

・各ファンドは複数の指定投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
・指定投資信託証券の組入れについては、通常の運用状況においては高位を維持することを基本とします。

［ファンド・オブ・ファンズ］
ファンド・オブ・ファンズとは、株式や債券などに直接投資するのではなく、複数の投資信託（ファンド）に投資し、運用を行う投資信託（ファンド）です。



*指定投資信託証券についての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

ファンド名	指定投資信託証券	実質的投資対象
FW 日本株式	わが国の株式を投資対象とする投資信託証券	わが国の株式
FW 米国株式(注1)	米国の株式を投資対象とする投資信託証券	米国の株式
FW 欧州株式(注1)	欧州の株式を投資対象とする投資信託証券	欧州の株式
FW 日本債券	わが国の円建ての公社債を投資対象とする投資信託証券	わが国の円建ての公社債
FW 世界債券(注1)	世界各国の公社債を投資対象とする投資信託証券	世界各国の公社債
FW ハイ・イールド債券(注1)	世界各国のハイ・イールド債券（低格付債）を投資対象とする投資信託証券	世界各国のハイ・イールド債券
FW オルタナティブ(注2)	オルタナティブ戦略・資産で運用を行う投資信託証券	世界各国の株式・債券・デリバティブ取引等
FW 世界リート(注1)	世界各国のリートおよび不動産関連株式を投資対象とする投資信託証券	世界各国のリート、不動産関連株式
FW エマージング株式(注1)	新興国の株式を投資対象とする投資信託証券	新興国の株式
FW コモディティ(注1)	コモディティ（商品）およびコモディティに関連する証券（資源株）等を投資対象とする投資信託証券	商品先物取引、資源株等
FW UBSプレミアム・エクイティ(注1)	株式選定に関わるUBSの運用知見を活用し、世界各国の企業の株式を投資対象とする投資信託証券	世界各国の株式

（注1）外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行ないません。
（注2）外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
※短期の金融商品および円建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資する場合があります。
※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

投資リスク

基準価額の変動要因

各ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動きによる影響（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を受けますが、これら運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。

各ファンドにかかる主なリスクは次の通りです。ただし、すべてのリスクについて記載されているわけではありません。

	株式の価格	公社債の価格	リートの価格	商品先物取引	デリバティブ取引	オルタナティブ戦略・資産	カントリー・リスク	為替変動リスク	為替に関する留意点	流動性
FW 日本株式	●									●
FW 米国株式	●						●	●		●
FW 欧州株式	●						●	●		●
FW 日本債券		●								●
FW 世界債券		●					●	●		●
FW ハイ・イールド債券		●					●	●		●
FW オルタナティブ	●	●			●	●	●		●	●
FW 世界リート	●		●				●	●		●
FW エマージング株式	●						●	●		●
FW コモディティ				●	●		●	●		●
FW UBSプレミアム・エクイティ	●						●	●		●

■株式の価格変動リスク

・株価変動リスク
株価は、政治・経済情勢、株式の需給関係、発行企業の業績等を反映して変動します。また株価は、短期的または長期的に大きく変動することがあります。組入銘柄の株価が変動した場合には、基準価額に影響を与える要因になります。

・信用リスク
株式の発行企業の業績悪化や経営不安、倒産等に陥った場合には投資資金の回収が出来なくなる場合があり、基準価額に影響を与える要因になります。

■公社債の価格変動リスク

公社債の価格は、主に金利の変動（金利変動リスク）および発行体の信用力の変化（信用リスク）の影響を受けて変動します。公社債の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。公社債の価格の変動幅は、公社債の償還までの残存期間、発行体の信用状況などに左右されます。また、ハイ・イールド債券などの格付けの低い債券については、格付けの高い債券に比べ、価格が大きく変動する可能性や組入債券の元利金の支払遅延および支払不履行などが生じるリスクが高いと想定されます。

■リートの価格変動リスク

リートの価格は、不動産市況の変動、リートの収益や財務内容の変動、リートに関する法制度の変更等の影響を受けます。組入リートの市場価格が下落した場合、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

■商品（コモディティ）先物取引の利用に伴うリスク

商品先物の取引価格は、様々な要因（商品の需給関係の変化、天候、農業生産、貿易動向、為替レート、金利の変動、政治的・経済的事由および政策、疾病、伝染病、技術発展等）に基づき変動（個々の品目により具体的な変動要因は異なります。）するため、基準価額は、短期的または長期的に大きく下落し、投資元本を下回ることがあります。

■ デリバティブ取引の利用に伴うリスク

デリバティブ取引を利用して純資産規模を上回る買建て、売建てを行なう場合、価格変動リスクが現物有価証券に投資する場合と比べて大きくなる可能性があります。また、デリバティブ取引の相手方の債務不履行により損失が発生することがあり、この場合基準価額が下落する要因となります。先物の価格は、対象証券または指数の値動き、先物市場の需給等を反映して変動します。先物を買建てている場合の先物価格の下落、または先物を売建てている場合の先物価格の上昇により損失が発生し、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

投資リスク（続き）

■ オルタナティブ戦略・資産にかかるリスク
オルタナティブ戦略・資産での運用においては、実質的な投資対象市場の価格が上昇した場合でも、収益が得られない場合や損失が発生する場合があります。
また、市場環境によっては、オルタナティブ戦略・資産での運用が効果的に機能しない可能性があり、基準価額が予想外に下落する場合があります。例えば、買い建て（ロング・ポジション）取引のほか、売り建て（ショート・ポジション）取引を同時に行う戦略の場合には、買い建てた株式等が値下がりしたときや売り建てた株式等が値上がりしたときには基準価額が下落する要因となります。また、現物株式のポートフォリオを保有しながら株価指数先物取引の売り建てを行う戦略の場合には、組入れている現物株式の株価が上昇しても基準価額が下落する場合があります。

■ カントリー・リスク
投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となったりする場合があります。なお、新興諸国・地域に投資を行う場合、一般的に先進国と比較して、「政治・経済および社会情勢等の変化の度合いおよび速度が大きい傾向にあること」、「資産の移転に関する規制等が導入される可能性が高いこと」、「企業等の開示に関する正確な情報確保が難しいこと」等のリスクおよび留意点があります。

■ 為替変動リスク
外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いませんので、円と当該組入資産に係る通貨との為替変動の影響を受けることになり、円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となります。

■ 為替に関する留意点
外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります※。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできませんので、基準価額は円と当該外貨建資産に係る通貨との為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利が当該組入資産に係る通貨の金利より低い場合、その金利差相当分のコストがかかり、基準価額の変動要因となることがあります。
※対円での為替ヘッジは、投資対象となる指定外国投資信託証券の表示通貨に対して行うため、指定外国投資信託証券において表示通貨以外の組入資産がある場合には当該組入資産に係る通貨による為替変動の影響を受けることがあります。

■ 解約によるファンドの資金流出に伴うリスクおよび流動性リスク
短期間に相当額の解約申込があった場合や、市場を取巻く環境の急激な変化等により市場が混乱し流動性が低下した場合は、保有する有価証券を市場実勢から期待される価格で売却できないことがあります。

その他の留意点

［クーリング・オフ］
ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

［指定投資信託証券における解約制限］
指定投資信託証券では、1日の解約額が指定投資信託証券の純資産総額の一定額を超える場合に、解約申込に制限をかける場合があり、これにより、当ファンドの換金申込の一部もしくは全部が行えない、または換金申込の受付の取消などの影響を受ける可能性があります。

［分配金に関する留意点］
分配金は計算期間中に発生した信託報酬等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）を超過して支払われる場合がありますので、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金はその支払いの一部ないし全てが実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。また、ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。なお、分配金の支払いは純資産総額から行われますので、分配金支払いにより純資産総額は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。

［流動性リスクに関する留意点］
当ファンドは、大量の換金が発生した短期間での資金充当の際や、主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量に制限がかかるリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

「リスク管理体制」等については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用

当ファンドの購入時や保有期間中には以下の費用がかかります。

■ 投資者が直接的に負担する費用

時期	項目	費用
購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	信託財産留保額	ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

FW 日本株式

時期	項目	費用			
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）		
			委託会社	0.21%	委託した資金の運用の対価
			販売会社	0.01%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社	0.02%	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。		
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.550%程度(注2)(注3) （年率0.130%～年率0.759%）(注2)		
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.814%程度(注2)(注3) （年率0.394%～年率1.023%）(注2)		
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)			
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用		
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等		
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用			
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料		
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用		
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。			

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用（続き）

FW 米国株式

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.580%程度(注2)(注3) （年率0.180%～年率0.770%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.844%程度(注2)(注3) （年率0.444%～年率1.034%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

FW 欧州株式

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.7040%程度(注2)(注3) （年率0.5000%～年率1.0605%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.9680%程度(注2)(注3) （年率0.7640%～年率1.3245%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用（続き）

FW 日本債券

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.2320%程度(注2)(注3) （年率0.1485%～年率0.3520%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.4960%程度(注2)(注3) （年率0.4125%～年率0.6160%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

FW 世界債券

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.489%程度(注2)(注3) （年率0.200%～年率0.490%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.753%程度(注2)(注3) （年率0.464%～年率0.754%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用（続き）

FW ハイ・イールド債券

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.6000%程度(注2)(注3) （年率0.5675%～年率0.8000%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.8640%程度(注2)(注3) （年率0.8315%～年率1.0640%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

FW オルタナティブ

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.9500%程度(注2)(注3) （年率0.7601%～年率1.5700%）(注2) （成功報酬を採用する投資対象とする投資信託証券の運用成績によってはこれを上回ることがあります。）
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率1.2140%程度(注2)(注3) （年率1.0241%～年率1.8340%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用（続き）

FW 世界リート

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.449%程度(注2)(注3) （年率0.400%～年率1.150%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.713%程度(注2)(注3) （年率0.664%～年率1.414%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

FW エマージング株式

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率1.004%程度(注2)(注3) （年率0.835%～年率1.350%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率1.268%程度(注2)(注3) （年率1.099%～年率1.614%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用（続き）

FW コモディティ

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.493%程度(注2)(注3) （年率0.340%～年率0.870%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.757%程度(注2)(注3) （年率0.604%～年率1.134%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

FW UBSプレミアム・エクイティ

時期	項目	費用	
保有時	運用管理費用（信託報酬）	当ファンド	日々の純資産総額に年率0.264%（税抜年率0.24%）を乗じて得た額とします。 （運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率） 配分は以下の通りです。（税抜、年率表示）
			委託会社 0.21% 委託した資金の運用の対価
			販売会社 0.01% 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
			受託会社 0.02% 運用財産の管理、運用指図実行等の対価
			※運用管理費用（信託報酬）は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。(注1) ※投資顧問会社（運用指図権限の委託先）への報酬は、委託会社が受取る報酬から支払われます。
		投資対象とする投資信託証券	当ファンドの純資産総額に対して年率0.382%程度(注2)(注3) （年率0.190%～年率0.900%）(注2)
		実質的な負担	当ファンドの純資産総額に対して年率0.646%程度(注2)(注3) （年率0.454%～年率1.164%）(注2)
	その他の費用・手数料	諸費用（日々の純資産総額に対して上限年率0.1%）(注1)	
		監査費用	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
		印刷費用等	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
		実費とし、原則発生の都度ファンドから支払われる主な費用	
		売買委託手数料	有価証券等を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
		保管費用	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
		※投資先ファンドの運営に係る実費は、当該投資先ファンドにおいて発生の都度支払われます。 ※信託財産の規模、取引量等により変動しますので、事前に金額および計算方法を表示することができません。	

（注1）日々計上され、毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。
（注2）2026年5月末時点で委託会社が知りえた情報により記載しています。
（注3）2026年5月末時点における指定投資信託証券の組入状況を加味して委託会社が試算した概算値ですので、指定投資信託証券の組入状況等により変動します。また、当ファンドにおける現金等の純資産総額に対する比率によっては、概算値は一時的に上記で示した費用の範囲（上限／下限）を超過する場合があります。

※投資者の皆様にご負担いただく手数料などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

お申込メモ

購入単位	販売会社が独自に定める単位とします。
購入価額	当初申込期間：1口当たり1円 継続申込期間：**FW 日本株式、FW 日本債券** 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 （基準価額は1万口当たりで表示、当初元本1口＝1円） **FW 日本株式、FW 日本債券以外** 購入申込受付日の翌々営業日の基準価額 （基準価額は1万口当たりで表示、当初元本1口＝1円）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が独自に定める単位とします。
換金価額	**FW 日本株式、FW 日本債券** 換金申込受付日の翌営業日の基準価額 **FW 日本株式、FW 日本債券以外** 換金申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金代金の支払い	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	**FW 日本債券** 原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。 **FW 日本債券以外** 原則として、午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。 なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。 なお、指定投資信託証券における解約制限により、各ファンドの換金申込の一部もしくは全部が行えない、または換金申込の取消などの影響を受ける可能性があります。
購入・換金不可日	・申込日がロンドン証券取引所もしくはロンドンの銀行およびニューヨーク証券取引所もしくはニューヨークの銀行の休業日と同日 ・申込日の翌営業日がロンドン証券取引所もしくはロンドンの銀行、ニューヨーク証券取引所もしくはニューヨークの銀行、アイルランドの銀行およびルクセンブルクの銀行の休業日と同日
信託期間	無期限（2024年9月13日設定）
繰上償還	次のいずれかの場合には、各ファンドは繰上償還されることがあります。 ・当初設定日より1年経過後（2025年9月13日以降）に信託財産の一部解約により各ファンドの純資産総額が30億円を下回ることとなったとき ・受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	原則として、毎年6月10日とします。（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。（再投資可能） （毎年6月10日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度（NISA）の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの対象ではありません。 益金不算入制度および配当控除の適用はありません。

ファンドの関係法人

委託会社	UBSアセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第412号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社	岡三証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は、運用状況に関する情報提供を目的として、UBSアセット・マネジメント株式会社によって作成された資料です。投資信託は値動きのある有価証券（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本は保証されているものではありません。また、投資信託は預貯金とは異なり、元本は保証されておらず、投資した資産の減少を含むリスクがあることをご理解の上、購入のお申込をお願いいたします。投資信託は預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関を通じてご購入頂いた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
本資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成されておりますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。本資料の中で記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、本資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果等を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。購入のお申込にあたっては、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。
© UBS 2026. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。